

第4回野洲市総合計画審議会 産業・観光・歴史文化部会 議事録要旨

●日 時

令和2年7月30日(木) 14:00~17:00

●場 所

野洲市役所本館2階 庁議室

●出席委員(委員区分毎・50音順)

1号委員: 田中 勝也委員

2号委員: 奥邨 武和委員、木村 靖委員、松沢 松治委員

3号委員: 松井 佑太委員

●欠席委員

2号委員: 望月 幸三委員

●事務局

西村環境経済部次長、田中教育委員会次長、進藤教育委員会次長、行俊商工観光課課長
川尻政策調整部次長、玉川企画調整課課長、岡田企画調整課課長補佐、垂企画調整課専門員、
亀井企画調整課主事

●傍聴者

なし

1 開会

次長あいさつ

2 審議事項

第2次野洲市総合計画 基本計画(素案)について

—事務局より資料説明—

3-1 商工業の振興

◇委員からの主な意見・質問

【委員】指標について、「市街化区域の拡大の面積」「イベントの増加数」「移動販売事業の数」などはどうか。また、ブランド開発について、年に2つくらい開発すると考え、5年後に10個くらいを目標に設定できないか。雇用の創出については、人口減少やITの活用等により本来は従業員が減る方向になると思うが、商工業の発展により、今の野洲市の生産年齢人口の1%くらいの雇用が創出されるといいのではないか。

→【事務局】市街化区域については、今年度の編入が終われば、次に行われるのは10年以上先となる。5年間の計画に指標として入れるのは難しいと考える。

【委員】指標は商業では、創業件数や商業統計調査の年間商品販売額が考えられる。工業では、企業のCSR活動の件数や工業統計調査の付加価値額が考えられる。

【委員】近隣では、河川の整備等をまず行い、そこにまちを作っている。野洲市にはそういうプロジェクトがなく、ビジョンもないように思う。ここは都市計画の検討をする部会ではないが、産業や商業、観光のベースは都市計画にある。

→【部会長】都市計画部会の議論と統合し、最終的な落としどころを事務局でまとめてほしい。

【委員】商業は駅前に拘る必要はない。大津湖南幹線が開通するし、車社会では郊外に買い物に行く人が多い。沿線にも駅前で商業が発展しているところはなく、商売がしやすいところなら商売人が自ら進出してくる。駅前周辺を何とかしようと推し進めても成功しない。

【委員】湖岸沿いで商売をするのなら、空き地を公園として整備し、そこでカフェ等できるのではないか。他市には例がある。公園を芝生にして、そこで結婚式をする琵琶湖ウエディングも考えられる。

【委員】野洲は、大通り沿いに全国チェーン店が立ち並ぶようなよくある景色にまだなっていない。野洲市民や野洲市に関わる人が始めたような、オリジナリティのあるサービスや商業にあふれるまちを目指せばいいのではないか。

【委員】野洲市の駅前は喫茶店もない。多くの人が訪れているのだから、歩けるような道を整備し、人が通るようになると、商業は自ずとできてくると思う。大きな店舗でなく小さな店舗がポツポツあるといい。

【部会長】地域の商業を活性化させるためには、域外の人を呼ぶことも大切だが、地域の人に関わってもらうことが重要である。地産地消や観光、新規の自由な商業や移動販売等いろいろなことができる場所を湖岸に設けられるといい。また、駅前に拘る必要はないというものの、駅前が少し寂しすぎる。観光客や駅前に越してきた子育て世帯等が行けるような飲食店があればいい。

3-2 農林漁業の振興

◇委員からの主な意見・質問

【委員】指標について、認定農業者の数を維持するという目標や、全農業者に占める認定農業者の割合を増やすような目標が立てられるのではないか。集積率は80%が限度だと思うので、これでいいと思う。法人化も数字としてはつかみやすい。地産地消は、何らかのデータが取れるならば、指標として設定してほしい。スマート農業に取り組む経営体を50経営体くらいにすることも目標にできるのではないか。農業者・商業者・工業者等で知恵を出し、10品目ぐらい特産品を作るという目標もできればいい。六次産業化については、5年後に10経営体くらい増えればいいのではないか。農商工連携も年に2つくらい連携ができるといい。農林漁業の多面的機能については、環境こだわり農業の面積を増やす。また、土地改良施設の再整備を指標、取組方針、目標としてあげてほしいと思う。農家所得も50%くらい増えるといいと思う。たくさん挙げたが、この中から3つか4つに絞り、取り組めるといい。

【部会長】特産品目の数は、地域の独自性を生かした農業にどれだけ取り組んでいるかの指標になると思う。地産地消に関しては、全国の状況を調べてもアンケートによるものが多かった。六次産業については、加工品の出荷額が考えられる。

【委員】漁業については、環境悪化で魚が減っており、指標の設定は成り立たない。農業との関連では、有機農業の増加が考えられる。

【委員】皆さんの意見を聞いていると、経済と環境の両立に尽きるのではないか。ブランド化、六次産業化、特産品づくり、認定農業者の育成に取り組むのは、農業でちゃんと稼ぐためである。また、ただ稼ぐのではなく、環境を守りながら次世代につながる農業を行い稼いでいく。無農薬の認定数も指標になるのではないか。また、そういう野菜を給食にし、食育にもつなげる。それが、栄え

る、続くの「栄統的」になるのではないか。

【委員】大規模農業でないと市場では勝てない。スマート農業は必ず必要である。ただ、欲しい時に欲しい、新鮮なものが欲しい、おいしいものが欲しいという消費者のニーズがあり、そういう方向性も考えられると思う。また、教育で農業体験をさせることは重要であり、そこで魅力を感じてもらうことが次世代につながる。

3-3 地域資源を活かした観光の振興

【委員】観光客数が多いのはどこか。

→【事務局】希望が丘文化公園、近江富士花緑公園、琵琶湖鮎屋の郷の順である。県内のすべての場所を調査しているわけではなく、何か所かを定めて調査している。三上山等、集計する手段がないところは入っていない。

→【委員】あまり参考になる数字ではないように思う。

→【委員】御上神社、兵主大社、錦織寺、銅鐸博物館、マイアミランド等主要なところは入っている。全体を集計する統計はなく、この数字を使っている。

【委員】大岩山古墳は入っているのか。

→【事務局】入っていないが、たくさんの方が訪れている。他にもそういう場所はある。

→【委員】1か所だけではなく、三上山に来たら希望が丘、琵琶湖へ行くなら兵主大社と錦織寺等、つながって魅力的なものになっていくといい。今も観光ルートがあるようだが、これは市民や観光客に認知されているのか。観光資源はとにかく一度来てもらうことが大切であり、実際に来て何か魅力的なものがあれば、またリピーターも来る。

近江八景に倣った野洲八景やドクターイエローの見学場所等、新たな観光資源を発見し発信していくのはどうか。農林漁業とのタイアップや六次産業化と関連づけて、特産品や土産物も販売していい。案内表示の修繕も必要である。

イベントについては、廃止するものは廃止し、スクラップアンドビルドで新たなものを作っていくといい。

指標は観光入込客数では分かりにくい。例えば大岩山古墳に来られたら名簿を書いてもらう等、観光客の実態をつかむことが大切である。

【委員】若者世代は、何を体験するのか、何を感じるのかを明確にしないと、行きたいと思わない。単に古墳があるだけなら、全国どこにでもある。野洲に来てこそ体験や経験ができ、その背景やストーリー、歴史、人々の生活が感じられる観光にしないといけない。観光は商工業、農業、教育、福祉、都市計画等いろいろな分野と密接に絡んでくるものであり、そこで何を感じるかを明確にしないと中途半端な観光施策になってしまう。インバウンドの消費額はコロナ前でも2割いかないくらいであり、国内の宿泊旅行者が大きなターゲットとなると思う。

→【部会長】宿泊場所はどうか。

→【委員】市有地の遊休地をキャンプできる公園にすればいいのではないか。そのためには、行政と密接に連携し、強力で推進していくような調整組織が必要である。

【委員】両サイド田園地帯となっているところを車で走るだけでも、都市部の人には経験になる。今ある自然であっても、経験や体験にできる。

→【部会長】アグリツーリズム的な観点である。

→【委員】市内のバイクの登録者数が増えており、バイクに特化したツーリングコースを作っても面白い。

【委員】観光の拠点がまず必要である。地元の農産物を販売したり皆が集まったりするような場所を、使用していない公共施設等を活用し作っていききたい。また、観光資源を地元の人や子どもに知ってもらうことが重要であり、学校教育と連携していくことが必要である。例えば、他所へキャンプに行くのではなく、歴史民俗資料館の弥生の森で原始生活を体験してもらう。子どもたちに知ってもらうことが観光資源の掘り起こしになり、大人にも伝わっていく。地元の人に認知されていない。

【委員】これまでも、エコツーリズムやアグリツーリズムと合体し、いろいろな体験型観光をNPOで実施してきたが、無償では続かない。駅からのアクセスも課題である。

【部会長】バイクや車の人も湖畔を通る途中で寄り道をするため、湖畔はそういう人の方が誘導しやすい。電車で駅から来る人と湖畔を通る人は、目的も行動も交通手段も異なり、そこを踏まえたアプローチが必要である。基本的な方針としては、体験やコト消費のような今どきの観光を、野洲の資源を活かしつつ考えていくということにまとめられるのではないか。

3-4 歴史文化遺産の保全・活用

【委員】守るべき伝統と廃れてしまった伝統、新たな伝統等を調べ直し、それらを活用して、最終的には商業や観光につなげていかないと、文化の保全・活用だけでは市民の関心が薄い。永原御殿は、せめて模型までできるといいのではないか。

→【事務局】今年、地元の意見も含めて活用計画を立てる予定である。

→【委員】予算や土地の関係もあるが、夢のある復元になればいい。

→【委員】将軍の恰好をして宿泊できるような施設にしたい。

→【事務局】将来的な維持管理も関わってくる。行政が主体ではなく、市民に使っていただき、地域の応援をいただき、やっていけると楽しいと思う。

【委員】伝統行事は継承が難しくなっている。過疎化して消滅しそうなものや、やる気がだんだん無くなっているようなものもある。

→【委員】昔は伝統行事が一番の楽しみだったが、今は楽しみでなくなっている。

→【部会長】体験型観光にも、市民が地元の歴史遺産を実際に体験するというものがある。地域の資産を守ることの意義を感じる機会になる。今の観光は、ストーリーや体験の内容から観光に来られるので、すごいものがなくとも、きちんとした仕掛けで満足してもらえる。

【委員】他市にも、有名人と結び付けた神社やアニメの聖地巡礼などがある。はっきりとモデルとされてなくとも、アニメの場面に似ているからと流行っているところもある。敢えてボロボロなのが流行っていることもある。

【部会長】インフルエンサー的な人に来てもらって発信してもらおうと、それをフォローする人もいる。若い人たちは観光ガイドブックを見て来られるわけではなく、インスタグラムやフェイスブック等を見て来られる。観光のそういう側面を活用し、連携して保全活用を進めることが必要である。

【委員】観光になりつつある神事がある。以前は神事らしく、粛々と行事を行っていたが、人を呼ぶこととし、だんだん見物客が増えてきている。観光と歴史文化の保全が融合している例である。

3 その他

- 施策5の基本計画（素案）については、頂いた意見を踏まえて作成したものを配布させていただきました。意見があれば事務局までお願いします。今後部会長と調整し、次の全体会で案をお示しさせていただきます。
- 9月12日（土）の午前10時から総合計画ワークショップを総合防災センターで開催する。
- 総合計画審議会全体会を10月2日（金）午後2時から図書館ホールで開催する。

4 閉会